

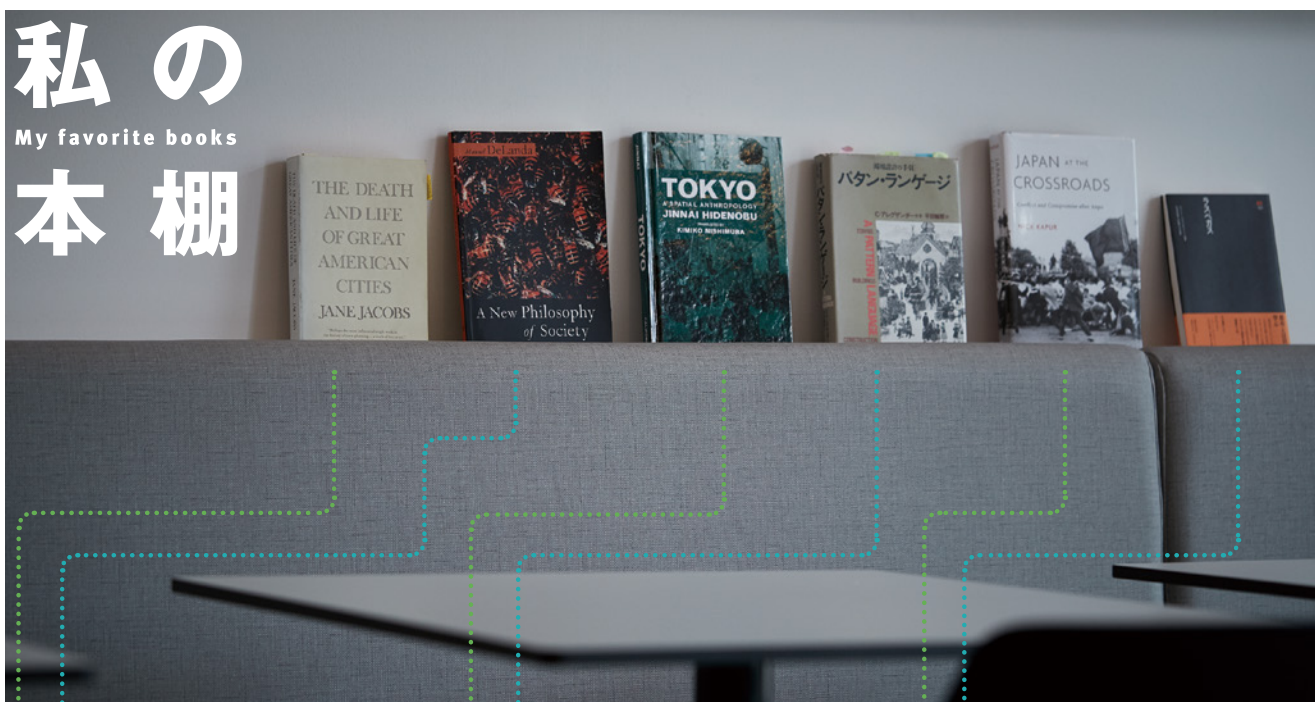
Title	私の本棚
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学工学部
Publication year	2019
Jtitle	新版 窮理図解 No.31 (2019. 10) ,p.7- 7
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000031-0007

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

私の 本棚

My favorite books



● A New Philosophy of Society: Assemblage Theory and Social Complexity

我々が社会を理解しようとする際、特定の個人もしくは国や文化といった抽象的でおおざっぱな存在を例にとり、過度に単純化しようとしがちである。この本は、この過度な単純化を避けるため、小さい町から大きな国家までその規模に合わせて、人々、建物、施設などの多様な要素の交流とネットワークにより構成されている色々な社会の在り方を説明している。筆者は、哲学と科学を結び付け、社会の複雑さを紐解くための発想の手段を示している。

● The Death and Life of Great American Cities

米国の多くの都市再生プロジェクトは、1950年代に都市へのマイナスの影響を示し始めていた。筆者のジェイコブスは、これらの再生計画について、都市生活の複雑さを単純にとらえ過ぎていると批判し、複雑な用途、短い区画、築年数の多種多様さ、人口密度の高さなどを指摘したことで知られている。出版から60年近く経った今でも、本書は、東京の新たな都市再開発プロジェクトの多くがなぜ「死んだ」都市を生んでしまうのかという理由を理解するのに役立つ。未来の開発者、計画者、建築家たちが、この本を通じて、私たちの都市をどう「生かし」つづけたらいいのかを学んでほしい。

● パタン・ランゲージ

この本は、建築の設計マニュアルであり、近代建築運動の批評でもある。街や建物から建設のディテールまで、筆者のアレグザンダーは、視覚的楽しみを提供し、社会的交流と心の健康を向上させる「パターン」と呼ばれる空間的配置の総合的なカタログを示している。しかし、これらのパターンを「優良な」建築物を生む客観的な方法として解説する筆者の主張は、融通がきかずどこか権威主義的なところがあるように見える。そこで、私は新たな解釈を得るためのカタログとして本書を利用することを勧める。出版から40年以上が経った今でも、本書は、インスピレーションを与えてくれ、モダニズムに由来する支配的な設計イデオロギーを超えて考える際に大きな指針となる一冊だ。

● Tokyo, a spatial anthropology.

東京を理解したいと願う人には本書を強く薦めたい。歴史的建造物がほぼ消えてしまった都市で、今日の東京で過去の面影を見つける方法を教えてくれる。筆者は、西欧風の整然とした広場や大通りを移植するのではなく、水との触れあい、地形、小規模といった歴史的特徴を高めることで、「日本の都市空間」を復活させるべきだと主張している。地中海の都市に見られる生き生きとした公共の場を愛する筆者が示す都市は、どの都市にも該当し、東西を問わず、世界中の都市が開発目標とすべき活気あるヒューマンスケールのアーバンイズムという性質がある。

● ラスベガス

ラスベガスは、建築家がインスピレーションを求めて訪れようとは決して思わない都市である。しかし本書は、1960年代後半のラスベガスについて、建築家が設計原理を引き出すことができる場所として紹介している。ラスベガスの都市景観の豊かさ、生き生きとした様子を称賛し、1960年代の現代建築における空虚な威風堂々としたところを批判している。短くておもしろく、気軽に読むことのできるこの本は、都市を中立的な目で観察し、都市の毎日の景観を楽しむ方法を学びたいと思っている建築家にとって必読の一冊である。

● Japan at the Crossroads: Conflict and Compromise after Anpo

どんな都市研究者も、都市の形状だけでなく、都市を生み出す社会についても理解する必要がある。日本社会の側面を理解しようとする中で、私は「日本文化」が「西洋文化」といかに異なるかという説明にしばしば直面する。しかし、本書では、現在の日本社会は古来の文化的伝統や自然の民族的傾向から成り立っているわけではないと言う。実際、現在の日本社会は、日本の近代史上最も多く、安保闘争が起こった1960年に形成されている。本書は、1960年の抗議活動の結果として、現代日本の社会、芸術、都市のパターンの多くが、社会的背景によるものだと説明している。